

## 2期生 (経営学部/経営学科)

# 濱寛

# 「できない」を「できる」にする



## 01 生まれと育ち

### 本気で目指して勝ちを取りに行く

幼少から自分の思い通りに事を進めたい性格。勝負ごとに関してはこの性格がとても現れていた。負けると、悔しさからひたむきに努力する。高校3年生の秋に受けた模擬試験ではE判定だった京都産業大学も、基礎から勉強しなおし、食事、睡眠、勉強だけの生活を続けた結果、7度の試験を経て入学を果たすことができた。

## 02 大学生になってからのこと

### 自分への挑戦

入学早々、大学にきた意味を見失った。高校3年生の時に出会った憧れの先輩に会うためこの大学に入学したのだが、その先輩がすでに卒業してしまっていたことを知ったのだ。その後の1年間は大した目的も持たず、ただだらとした日々を過ごしていた。そんな時、日本初の長期有給インターンシップと書かれたポスターを見かけてむすびわざコーポプログラムの存在を知る。直感的に「ここなら大学にきた目的を見つけられるかもしれない」と思った私は期待に胸を膨らませこのプログラムに参加した。

最初はインターンシップの準備として論理的思考や問題発見解決のプロセスなどを学ぶのだが、早くも壁にぶち当たる。教えられた内容が理解できないのだ。同期は理

解している様子で、授業中に行われた同期のプレゼンは私よりはるかに上手かった。「なぜこんなにもできないのか」。自分だけが置いて行かれるような気がして、できない自分を責めた。ただ、持ち前の性格から、ここで腐らかった。「自分はこんなものじゃない」という悔しさが原動力となり授業についていくために何日も徹夜で勉強。先輩に教えを乞い、空が明るくなるまで付き合ってもらったこともあった。気付くと日々15時間以上考えることが当たり前になり、精神的にも追い込まれていた。大学に向かっている途中「ここで死んだほうが幸せかもしれない」と思うこともあったが、できないままの自分であることが悔しくて、勉強し続けた。以来、これまで頑張り続けたのは、自分に負けなないと心に決めていたからだと思う。



## 03 長期有給インターンシップ

### 「プライドを捨て「できる」を実現する

実習先だった丸善雄松堂株式会社は丸善という愛称でお客様に親しまれている。この会社のインターンシップに参加しようと思ったのは経営理念のミッションである

「知を燈す、丸善」という言葉が心に響いたから。実習前に事前調査を行い、社員の方にこの言葉の解釈をお聞きし、「仕事を通じてお客様1人ひとりの人生の成長をお手伝いしているんです」と聞いた時には心が高まり、今すぐ丸善で働いてみたいと思う。

実習では大学の先生に学術専門書を紹介・販売するなどの訪問営業を行った。一人で営業をすることになると、早速壁にぶつかった。買っていただけない。その経験が何度か重なったことから、お客様に会いに行くことが怖くなり、だんだんと足取りが重くなっていった。いつもの自分ならできない状態が嫌でできるように努力するのだが、この時は焦燥感に駆られており、それどころではなかった。1年間このために勉強してきたのに、自分の実力はこんなものだったのか。ミスを

をすれば、会社に迷惑がかかる。お金をもらっているのに会社に何も貢献できていない。どうすれば買っていただけなのかも分からず自問自答を繰り返す日々が続いた。



そんな時、「失敗してもええから」と上司から一言。この言葉でお客様に会いに行

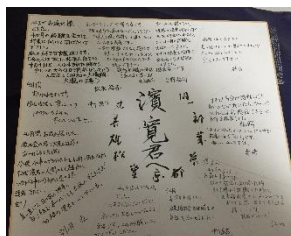
けないのは自分が傷つきたくないプライドが邪魔をしていたことに気付いた。そしてここから考え方が変わる。「傷つくのは売ろうとして断られるから。売るのはなく話をしに行こう」。お客様について情報を集め、質問を用意して研究室を訪ねた。すると、話を聞いてくださり時間を取って答えてくれた。今まで断られていた分話していただけるだけでも嬉しく、もっと話したいとも思った。話すきっかけを作るため、日常生活や実習を通して常に周りにアンテナを張り、お客様のためのなる情報を集めることや商品から会話のきっかけを作ってお話をしに行くことに。すると、いつの間にかプライドはなくなりお客様に会うことが楽しくなっていた。

## 04 これからのこと

### 関わる人の役に立ちたい

これからは関わる人にとことん向き合い、少しでも役に立てるようにになりたい。そうすることが今まで支えてくださった方々の恩返しになると思うからだ。大学2年生までは自分のために目の前の目標を達成しようとしてきた。しかし、むすびわざコーポプログラムで多くの方にお世話になることで、考えが変わってきた。先生や先輩、長期有給インターンシップで出会った社員

の方々は、未熟な私を受け入れてくださったからだ。恵まれた環境で多くの方に支えられてきたからこそ、自分を守るプライドや欲ではなく、私からも多くの人を支えたいと思うようになった。目の前の人を大事にし、少しでも役立ちうとする気持ちを持って、関わる人の役に立っていきたいと思う。



## 05 大事にしたいこと

### 未熟な自分を受け入れ謙虚である

長期有給インターンシップでは未熟な自分を中々受け入れられず、挫折した。しかし、どうやって立ち直れるのかを分かった私は今後失敗を怖がらずにいられるだろう。この先上手くいかないことだらけだろうが、今の自分があるのは今まで支えてくれた人のおかげだということを胸に刻み、失敗を受け入れる謙虚さを大事にしていきたい。

**14歳** 医者に心身症と診断される  
精神的に不安定になり医師に相談。心身症と診断され中学校を3ヶ月休む。

**18歳** 自分の不出来さを知る  
同期と比べ劣等感を感じたことから自分を变える転機になる。

**20歳** 長期有給インターンシップに参加  
働くことを経験することで、今後どうしていきたいのかを見つけることができた。

**14歳** 医者に心身症と診断される  
精神的に不安定になり医師に相談。心身症と診断され中学校を3ヶ月休む。

### 先輩・後輩からのメッセージ

#### 西坂真紀 (1期生)

彼は、いつも一生懸命で妥協を許さない性格の持ち主。「なぜ？」の疑問は解決の糸口が見えるまで、ほったらかしにしたくないようで、先生や先輩にたくさん質問をしている姿をよく見る。

#### 花田耀己 (3期生)

どんなこともそつなくこなす人だと思います。どんなに自分がやるべきことに追われていても、後輩が助けを求めると、すべきことを100%の力で行いながら後輩に対しても親身に接してくれているように思います。